



天上はるかに  
秋田高校東京同窓会会報

2018年6月30日(土)

秋田高校東京同窓会  
総会・懇親会

講演者

佐藤 菊夫 氏  
S22年卒



音楽家・指揮者

1954年、国立(くにたち)音楽大学卒業。  
1956年、国立音大卒業の翌年に結婚した奥様の西川清子さん(チェンバロ奏者)と共にオーストリアのウィーン国立音楽大学に留学。同地ではウィーン・アカデミー管弦楽団、ウィーン古典合奏団などに入団して活動、指揮法や作曲理論を学ぶ一方でウィーン少年合唱団の日本招へいなど、オーストリアと日本の音楽交流に尽力。  
1961年に帰国した後は指揮者として東京交響楽団などを担当。また、「東京合奏団」、「東京管弦楽団」を設立。定期演奏会や作曲・編曲など多彩に活動。1989年に秋田県民栄誉章受章、2011年2月には奥様と共に、オーストリア政府から「科学・芸術栄誉十字章第一等級」の勲章を受けている。

※参考: Wikipedia 他

秀麗無比なる・・・で始まる“秋田県民歌”は、太平洋戦争終結前には山形県の“最上川”、長野県の“信濃の国”と合わせて「三大県民歌」の1曲と称されていた(ウィキペディアより)そうである。

戦後この県民歌が歌われなくなった時期がある。昭和34年、朝あけ雲の・・・で始まる“秋田県民の歌”が作られ、小中学校などでこの歌を歌うことが押し進められた。主に昭和40年代に高校を卒業した人たちがその対象年代になるかと思う。そのため、その年代に高校を卒業してふるさと秋田を離れた人の中には、秀麗無比なる・・・の“秋田県民歌”を知らない、知らなかったという人たちがけっこう多い。

近年東京で行われる秋田県関連の会などでは必ず、秀麗無比なる・・・の“秋田県民歌”が歌われる。確かに素晴らしく誇らしい歌である。が、朝あけ雲の・・・の“秋田県民の歌”も忘れずにいたいもの。

さて、今年も総会・懇親会の日がやってきます。

多くの皆さんのご参加を、心よりお待ちしております。

開催要項

- 会場 …………… ハイアットリージェンシー東京 >>>
- 受付 …………… 16:00 ~
- 総会・事業報告 …… 16:30 ~
- 講演 (佐藤菊夫氏) … 17:00 ~ 17:50
- 懇親会 …………… 18:00 ~

JR 新宿駅西口  
徒歩約9分  
都営大江戸線  
都庁前駅A7出口  
C4通路徒歩1分  
丸ノ内線  
新宿駅西口徒歩4分



東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234

◆ 当日会費 ・8,500円

※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円です。

橋本五郎の  
AKITA  
元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長

橋本 五郎

ふるさとのさまざまな苦闘

秋田県の人口が遂に100万人を割ってしまいました。一体どうしたらいいのか。秋田放送が開局65周年を記念し、人口減少に歯止めをかけるため「移住・定住」を考えようと特別番組をつくりました。3月3日に2時間番組として放映された「あきたに住みます!2018」です。収録場所は、山本郡三種町鯉川にあるわが家「五郎のえ(家)」が選ばれました。ここで元地方創生担当大臣の石破茂さん、横手市出身の女優、増密さんと私の3人で対談し、秋田の将来について語りました。

冒頭、石破さんがおもしろい数字を紹介しました。秋田県が47都道府県で一位なのが、ワースト面では人口減少率、自殺率、婚姻率。どう評価するかは別にして1人当たりの睡眠時間、美容師の数、さらにNHKの受信料の支払率も全国一だということです。ここから何がわかるか。私はNHKの受信料などには、決められたことはきちんと守ろうとする実直な県民性を見てしまいます。

番組では、増密さんの聡明さが印象づけられました。あの手この手でUターンを進めている横手市や廃校になった校舎を企業家オフィスに開放した五城目の事例が紹介され、とても参考になりました。鹿角市では「地域おこし協力隊」の隊員を増やすことで隊員同士がお互いに悩みや楽しみを共有し、鹿角へ定住することになったというのです。そこには、何とかしてふるさとの崩壊を防ごうとしている苦闘の姿がありました。

放映された2日前には、秋田市で秋田県主催の「地域コミュニティの維持・活性化セミナー」が開かれ、基調講演をしました。ここでもまた、自分たちの手で買い物送迎無料バスの運行を始めた横手市増田町や消えゆくガソリンスタンドを工夫しながら守った仙北市の試みが報告されました。私にとっては一つ一つが「希望」でした。

2018年5月  
新緑号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032  
東京都港区六本木 5-16-5  
インベリアル六本木 1001  
鎌田会計事務所内

TEL 03-5545-7775  
FAX 03-5545-0087

http://www.shuko-ob.net/

# 平成30年 大学生との交流会・新春賀詞交換会 報告

## ◆ 平成30年大学生との交流会



## ◆ 平成30年新春賀詞交換会

### ● 講演

講演者  
辻村 直也 氏  
H12年 卒  
ウェブリオ株式会社  
代表取締役



平成30年1月27日 / 於：アルカディア市ヶ谷



## 寄稿

大津 拓海 H27卒

就職活動に関してのお話を聞くこと、先輩方とお話をするこの2つの目的を持って、私は「交流会・賀詞交歓会」に参加しました。

今年就職活動を終えた方に始まり、就職活動を支援なさっている方、今現在働かれている方、起業された方、一線を退かれた方、そして自分と同じ立場の人達と話をすることができました。就職活動に関して霧が晴れただけでなく、入社後に持つべき信念についてまで考えることができました。就職活動は、企業VS人という構図だという考えが、人と人によって行われるものであるというように変化しました。就職活動の形式と本質に注意していきたいと思います。

交歓会は先輩方との関わりということで緊張していたのですが、優しく迎えていただきましたおかげで、少しの緊張は持ちつつも怖じける事なくお話をさせていただきました。高校・大学時代についてのお話を聞いたり、今の秋田について話し合ったり、職場でのお話を伺いました。秋田高校OG・OBの方々とは直接関わりを持つことができる貴重な場でした。

残り2年となった大学生活ですが自己分析をし続け、自分に出来ることと出来ないことについて考えながら生活をして生きたいと思います。

山部 咲知 H27卒

この度初参加させて頂き、「同窓会」の皆様が秋高愛と絆の強さを感じ、その一員であることを嬉しく思いました。

就活セミナーでは、詳しいお話を聞くことができ、それまで自分が抱いていた就活のイメージは間違っていたことに気づかせていただきました。また、厳しい就活を乗り越えた先輩方のお話を伺い、自分も後に続こうとより前向きな気持ちになりました。

各分野の第一線でご活躍されている諸先輩との賀詞交歓会は大変意義深いものでした。また秋高の諸先輩が秋田への愛情を熱く語る姿、時折出てくる秋田弁、久しぶりに歌う秋高校歌には故郷での思い出が蘇り、胸が熱くなりました。それだけでなく、個人的な悩みにも親身に相談に乗ってくださり丁寧なアドバイスをくださったことが大変ありがたかったです。

私は、大学生活も折り返し地点となり、「わが生わが世の天職いかに」と自分の目指す道を考える時期になりました。「世のため尽くす」社会人になれるよう、将来を考え「おのれを修めて」残りの学生生活を過ごしたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて頂きありがとうございます。これからよろしく願い致します。

桃生 優華 H27卒

大学3年の晩秋、ようやく就活を視野に入れ始め、手探り状態で情報収集を始まりました。活動を始めたのが遅く、インターン経験もないので正直自分が何をしたいか不透明であり、メールに次々と舞い込んでくる沢山の情報の波に飲み込まれていきそうな感じを抱いていました。そんなとき、高校の東京同窓会でのお話を伺い、自分の現状を打破するきっかけになればと思い、初めて参加しました。

先輩とのやりとりを通して、就活で大事なものは、内定先を多く獲得するのではなく、内定後自分がどう生きたいかという観点で自分に合った就職先を見つけることでした。同郷出身であるからか、良い意味で気軽に先輩に相談ができ、気持ちが前向きになりました。

高校の先輩方との食事の際、懐かしの秋田弁が次々と繰り出され、東京にいながら故郷を感じる事ができ、暖かい気持ちになりました。著名な方々と席を共にでき、改めてこの高校に入れてよかったですし、同時に自分も何かしらの形で後輩の力になればと感じました。

就活は自分にじっくりと向き合う最初で恐らく最後、かつ最大の大きい行事だと思います。焦らず自分にできることに取り組み、残りの学生生活を満喫したいです。

金沢 悠哉 H27卒

大学生と社会人の交流会及び新春賀詞交歓会に参加させて頂きました。

就活の時期が近づいていたため、何か参考にできればとの思いで参加の申込みをしました。結果として、今回の東京同窓会で得られたことは、私の期待以上のものであり、参加して良かったと感じています。

大学生と社会人の交流会では、就活体験談や就活セミナー、そして先輩方との座談会で、様々なお話を聞きすることができました。中でも特に印象に残っているのは、就活における面接は、採用面接であると同時に、自分が相手を見に行く場でもあるという、座談会でのお話です。これは、面接に対する苦手意識を持つ私にとって、非常に新鮮に感じる考え方でした。このお話を聞いてから、面接に対して自分の中で多少の余裕が持てるようになったと感じています。

賀詞交歓会では、自分よりも大きく歳が離れた先輩方のお話を聞きすることができました。大学生活の中では滅多に関わることはない世代の方々との交流は、大変貴重なものであり、また、頂いた言葉の一つ一つに深みを感じました。

今回の同窓会で得たことを、今後の進路選択の参考にしたいと思います。また一方で、秋高同窓会のつながりの大きさも実感しました。今後も機会があれば同窓会の活動に参加したいと思います。

## 「平成30年 大学生との交流会・新春賀詞交換会」に寄せて

伊藤 直生 H27卒

昨年12月に実家に葉書が届いたのがきっかけで、私は大学生と社会人の交流会および新春賀詞交換会に参加させていただいた。大学3年の冬、就職活動を控えた私にとってこの会は非常に有意義なものとなった。

まず一つは、大学4年の先輩から就職活動の体験について話を伺ったことだ。大学や企業の方から体験談を伺うことはあるものの、あくまでそれは少し美談めいたものでありリアルさという観点では少し物足りないものであった。しかし今回は、どんなところでつまづいたのかなど就職活動を行う中で実際に辛かったことを含めた話を秋高の先輩から直接聞くことができたため、非常に参考になった。この話を一つのモデルケースとして捉え、今後の糧としたいと考えている。

二つ目は、秋高出身の社会人の方とたくさん話げできたことである。私にとって年の近い先輩から大先輩に至るまで、様々な話を伺うことができた。実際にどんな仕事をしているのかだけでなく、秋田高校の先生の話や部活の話もすることができたため、非常に有意義な時間であったのと同時にとても楽しい時間でもあった。

この会を通して、私は「秋高の繋がり」を再確認した。就職活動を終え自らが社会人になってからは、このようなつながりを守っていくために私も尽力したいと思う。

終わりに、この会を開催し参加して下さった先輩の皆様、誠にありがとうございました。この会で学んだこと・得たことを活かして、これから努力を重ねていきたいと思います。

鈴木 彩 H27卒

今回の東京同窓会では就職活動に関する講演会が開かれるということをお聞きし、これは自分の将来についてのヒントを得るよい機会になると考え、今回の同窓会に参加を決めました。

前半の講演会ではこれから始まる選考に向けてどう準備していけばいいか、また先輩方がどのようにしてご自身のキャリアと向き合ってきたかといったようなお話を聞きました。どのようにして未来を考えてきたのか、どのようにして舵を取っていったのか。お話の中からそれぞれ異なる考えをもって道を切り拓いていったことがわかり、それでは自分はどのようにしていくのかといったことを考えるきっかけとなりました。

今回、一日を通してさまざまな業界、業種、年齢層の先輩方とお話しさせていただきました。先輩方は多種多様なフィールドで活躍なさっていますが、その中でどの方にも共通していると感じたものは「秋田高校の卒業生としての自主自律の精神と誇り」です。そしてその精神は少なからず私の中にも流れています。

いかなる時代においても変わることなく受け継がれていくこの精神と誇りを大切に、これから自分の未来に向かって突き進んでいこう。そんな決意を抱くよい一日となりました。

佐藤 秀 H16卒

社会人1年目の参加以来、10年振りに参加させていただいたにも関わらず、当時親しくお話しをした方々にも覚えていただけており、同窓のつながりの強さを改めて感じました。前段の就活大学生との相談会では秋田高校野球部から東大へという逸材から、私が15年前に創設に関わったジャグリング同好会の後輩と出逢うなど、色々な方の考えを聞くことができ、社会人のこちらのほうが勉強になりました。

その後とても興味深い起業のきっかけを講演されたWeblio代表の辻村さんをはじめ、副知事のご参加や会長は勿論のこと、それぞれの分野で活躍される豪華すぎる先輩方ばかりで恐縮致しましたが、皆様本当に気さくに話しかけていただき、みんなあのうぐいす坂を上って、同じ窓から秋田の街を見下ろして育った仲間なんだと思うととても不思議な思いがしました。

会長の仕事に対する志のお話を聞くにあたっては、懐かしい我が校歌を思い出しました。「敬天愛人 理想を高く おのれを修めて世のため尽くす」理想を高く努めていけるようこれからも一層心を引き締めていきたいような素晴らしい会でした。

長谷川 和弘 S47卒

初めて秋高東京同窓会の賀詞交歓会に参加させていただきました。

私ごとですが、NTT(当時の電電公社)に入社して約40年、2年ごとの転勤で同窓会名簿上も長らく所在不明者となっていることが昨年判明し早速再登録しました。

交歓会では大変フレンドリーな雰囲気の中、大先輩の皆さまと就活中の学生の方々との触れ合い、日頃便利に利用させていただいているウェブリオ(株)の創業者が後輩だったという驚きと嬉しさなど、新たな楽しい発見があり有益なひと時でした。

今後は少しでも同窓会活動のお役にたてるよう取り組んでいきたいと思っています。

## 特別寄稿

## 秋田出身の文学者たち II

私は出版業界で40年以上過ごしてきた編集者である。スタートは経済・経営をテーマとした、雑誌・単行本を扱うダイヤモンド社に奉職したことである。

あるきっかけで「秋田出身の作家や出版人」について原稿を書く機会にめぐまれた。文学や出版業界に深くかかわった、著名な人たちのいかに多いことか、再認識させられた。

秋田市に生まれ、両親とも秋田人で、根っからの秋田っ子である私が、卒業した秋田高校の会報にこうした一文を書くのは、何よりの誇りであると思っている。

明治時代に出版社を興し、今日まで続けている大手出版社は数多い。なかでも日本を代表する文芸出版社、新潮社を創業した、佐藤義亮(儀助)を取り上げた。

1878年、秋田県仙北郡角館町(現・仙北市)に生まれ、秋田師範学校の予備校といわれた、秋田市にある積善学舎に入学した。

1895年上京し、苦学しながら哲学館(現・東洋大学)を卒業後、新潮社を創立した。

角館にある新潮社記念文学館を訪れると、その歴史に圧倒される。

秋田高校の先輩として、今でも編集者仲間の話題にあがる滝田栲陰(1882~1925)という偉大な編集者を知る人は、多くはあるまい。

栲陰は、秋田市手形新町に生まれた。私の生家とごく近い。保戸野小学校を経て1896年秋田中学に入り、卒業後仙台の第二高等学校に進み、1903年東京帝国大学に進学する。

アルバイトのつもりで始めた、『中央公論』の翻訳の仕事がいつの間にかのめり込んでしまい、1904年、正式に中央公論社に入社。大編集者のスタートを切った。

学界・論壇・文壇を通じて無数の新人・逸材を発掘した。漱石、鳴外、龍之介、藤村、万太郎、直哉、和郎、潤一郎、荷風などの話題作を文芸欄に掲載した。中央公論を権威ある総合雑誌に育て上げた。

明治の終わりから大正へかけての作家で、一人として栲陰の息のかからぬ者はいなかったと言っても過言ではない。

また、吉野作造を起用して、デモクラシー思想を普及したのも、栲陰の大きな功績である。

次に、秋田出身の女性小説家に注目してみたい。山田順子と矢田津世子である。共通しているのは、抜けるような白い肌の秋田美人であるということ。津世子は垢抜けした女優のような美女で、順子は男好きのする可愛い人であつたらしい。山田順子(1901~1961)は徳田秋声、竹久夢二などの愛人として知られているが、自由奔放に生きた小説家として、憧れた女性も多かったという。

秋田県由利郡本荘町に裕福な廻船問屋の長女として生まれる。県立の秋田高女を卒業後、20歳で弁護士と結婚。小樽に住むも文学志望を断ち切れず、自作「流るるままに」を抱えて上京し徳田秋声に師事した。

この作品を上梓するにあたり、出版社の社長や、装丁を担当した竹久夢二と恋仲になり、世間を驚かせた。

順子は一時帰省していたが、秋声の妻が亡くなり、再び上京。秋声の愛人となった。秋声は「元の枝へ」など28編にも及ぶ「順子もの」と呼ばれる短編を濫作した。1935年には「仮装人物」を出版。順子ものの集大成とした。

矢田津世子(1907~1944)は秋田県南秋田郡五城目町に生まれる。その後一家で上京、麹町高等女学校を卒業。坂口安吾

と知り合い、同人誌「桜」に参加。これから4年もの間、安吾とのプラトニックな関係を続けたことは有名だ。

1936年、小説「神楽坂」が第3回芥川賞候補となる。繊細な筆致で、心理の葛藤を情感豊かに描いた、美貌の女性作家として人気が出た。川端康成に女優になるよう強く勧められたほど。

安吾によって伝説化された薄命の女性作家は37歳でこの世を去る。著作も10数冊あり、2016年、講談社文芸文庫に『神楽坂・茶粥の記 矢田津世子作品集』がある。多くの作品に、郷里秋田の風景やゆかりの人たちが登場する。私には感慨一入(ひとしお)である。

1995年に五城目町にオープンした「五城館」に文学記念室が設けられ、康成や利一からの手紙類が展示され、なかでも安吾からの30通余の手紙は貴重なものだ。

戦後、秋田を訪れた安吾が「ここで生まれ、7年前に亡くなった片思いの恋人を想うと、吹く風も懐かしい」と述懐している。



田村 紀男(たむらのりお)  
S34卒

1940年、秋田市生まれ。秋田高校、早稲田大学を卒業後ダイヤモンド社に入社。書籍出版編集長、取締役を経て代表取締役社長に就任。退任後は財団法人、NPO法人の理事を務め、現在は出版プロデュース業。

## 同期会だより

## S30(首都圏「30会」), S33(秋高・東京三三会)

### 首都圏「30会」/昭和30年卒 東京同期会

#### 大江戸散歩会

佐藤 正彦 S30卒

かつては8組の盛会を誇ったゴルフコンペも奇る年波と鬼籍に入った方が増えて解散。代わって今は2か月に一度の「大江戸散歩会」が人気です。

平成29年11月22日(水)八丁堀から佃島までの約5K、新旧(古い時代の建物と高層ビル群)が交差する隅田川河畔を散策しました。終了後の反省会は小沢啓一郎亭の豪華な高層マンションに会場を移転。33Fのゴージャスなゲストルームから眼下をゆっくりと流れる隅田川、それに跨る3つの堅固で美しい橋、上り下りの水上バスとスカイツリーの借景を眺めての「大名弁当」と美酒。応えられない一日でした。

次回は3月、「六義園」で早咲きの桜を愛でて語り会いたいと計画しています。



### 秋高・東京三三会/昭和33年卒 東京同期会

斉藤 信雄 S33卒

昭和33年卒東京同期会は平成29年11月17日(金)午後4時より東京浜松町・世界貿易センタービル39階にある東京會館で27名の参加で開催されました。

熊谷光太郎 東京三三会代表幹事の挨拶のあと、秋田から駆けつけた秋高三三代表の佐藤満雄君より平成29年度例会(9月15日・メトロポリタン秋田)の様態と恩師・畑澤潤一先生の近況報告がありました。先生は体調を崩されていましたが、回復し「来年の傘寿の記念同期会には参加を約束してくれた」話に皆、歓声を上げました。

いつまでも皆の心に残る恩師であります。

恒例の講演会は、東京同窓会会長・橋本五郎氏のお話で「最近の政界模様」①解散に大義は必要か、②小池都知事の政治手法、③選挙演説で何が大事か！安倍首相にアドバイスを求められたこと 等々述べられた。簡潔明瞭で分かりやすい語り口は「秋田人＝喋り下手」のイメージを完全に払しょくする歯切れのよさでした。

講演の終わりに橋本氏を囲んでの集合写真撮影。撮影は大平温君(日本写真協会理事)。写真のポーズ、試し撮りが続き(オーイ！おおひら！早く撮らないと齡とってしまうよ！)のヤジに場はすっかり打ち解ける。奈良から参加の石山君の乾杯で懇親会に移る。39階から光溢れる東京の大パノラマを見下ろしながらのワインはまた格別で、東京會館名物の本格的なフランス料理も堪能できました。立食式パーティーなので4・5名輪



を作っては旧交を温めました。元気印が多く、ゴルフの約束を交わしたり、再会を約束しあったりしていました。会の途中、盛り上がったのは秋田から参加した今野徹夫君が持参した地元の名酒「矢島の酒蔵・天寿の「鳥海山」」を紹介した時です。あっという間に数本が空になっていました。

会の最後は、今野君の音頭で校歌斉唱です。作詞者・土井晩翠先生の直筆(大正16年7月15日・秋田中学校校歌)を見ての斉唱。晩翠の心に触れた感慨です。「篤胤、信淵ふたつの巨霊」。本居宣長死後その弟子を自称し幕末の尊王攘夷運動に強い影響を与えた平田篤胤。平賀源内から洋画を学び秋田蘭画を形成し杉田玄白に頼まれて「解体新書」の挿絵を描いた小田野直武。その他にも多くの郷土の偉大な先人たち。秋田は高い精神風土の郷土である事を誇りに思いながら校歌を斉唱したものでした。

## 同窓会本部事務局だより

3月中旬に入り、『うくいす坂』の雪もすっかり消えて、春の訪れが感じられます。

2月28日には、卒業生263名を新たな同窓会員として迎える“同窓会入会式”が執り行われました。

翌3月1日は卒業式です。卒業式での新鮮な驚きは、男子生徒はスーツにネクタイ姿、女子生徒もほとんどがスーツ姿だったことです。大学時代も学生服ですごした我が身にとっては隔世の感これありで、47年もの昔話であれば当然のことかもしれません。

本部事務局長 柏木 幹夫 S46卒

卒業式で感服させられたことがもう一つ。答辞に立った卒業生代表、前生徒会長(女子)が、校是『自主自律』について、「自ら考え、自ら行動することと認識し…」と力強く述べたことでした。さすが秋高健児、よくぞ言ったと内心拍手を送った次第でありました。

さて、3月14日は入試合格発表の日。「ワーッ！」という歓声に目を向けると、学生服姿の中学生が抱き合っておりまして。

4月、母校は275名の合格者、新入生を迎えます。

## 幹事長だより

平成の世もあと1年で終わろうとしています。次は何という元号になるか楽しみです。当時小淵恵三内閣官房長官が「今日から平成になります」とプラカードを持ってテレビに映り「平成のおじさん」と親しまれました。実は竹下登元首相(S62~H1)が平成になる時の首相で、小淵さんがみんなに親しまれたのを嫉妬したといううわさが広がりました。来年は菅義偉内閣官房長官がプラカードを持つ役目でしょうか。楽しみです。

さて、今年になってからはドカ雪や春の嵐が吹き荒れ甲信越から東北・北海道にかけて雪に埋もれた時期も

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

ありました。春分の日(3月21日)には六本木でも雪が降りました。それでも4月になるとどんどん春が近づいてきます。梅が咲き、桜が咲き、桃が咲き始めます。伊豆の川津桜はとっくに散ってしまっています。季節がきちんとやってくることに感謝するような年齢になってきました。

秋田高校東京同窓会の総会を6月30日、ハイアットリージェンシー東京にて行います。今年是指揮者の佐藤菊夫さんの講演をお聞きします。昭和22年卒業の方です。一緒に秋田県民歌を声高らかに歌いましょう。



こまちの車窓から冬の太平山を望む 2018.2.28撮影



## ◆平成29年度/会費納入者一覧

平成29年11月1日～平成30年3月31日 現在

小沢 曉民  
昭和21年 加藤 日出男  
昭和23年 小野寺 正周  
昭和23年 黒丸 寛之  
昭和25年 神崎 泰雄  
昭和25年 中崎 致和  
昭和26年 那波 直司  
昭和27年 三矢 慶三  
昭和29年 大釜 茂璋  
昭和30年 石井 悠  
昭和30年 鈴木 妙子  
昭和30年 薄田 耕二  
昭和30年 西山 恪朗  
昭和31年 小林 宏晨

昭和31年 高橋 文夫  
昭和31年 林 博  
昭和33年 斎藤 信雄  
昭和34年 佐々木 浩二  
昭和35年 梅崎 克己  
昭和35年 小泉 忠一  
昭和36年 佐藤 正純  
昭和36年 成田 武之  
昭和36年 船木 茂  
昭和36年 松岡 直昭  
昭和37年 田淵 暁  
昭和39年 倉泉 信夫  
昭和39年 桑名 斉  
昭和39年 佐々木 偉義

昭和40年 矢尾 牧夫  
昭和41年 成田 憲明  
昭和41年 淡 亮策  
昭和43年 飯野 ゆき子  
昭和43年 石川 正幸  
昭和43年 後藤 一  
昭和43年 松尾 正  
昭和44年 秋山 正子  
昭和47年 中谷 多佳子  
昭和47年 長谷川 和弘  
昭和47年 三浦 明範  
昭和48年 荒川 利治  
昭和48年 荻津 郁夫  
昭和48年 鎌田 裕泰

昭和48年 管楚 誠  
昭和49年 嘉藤 芳樹  
昭和50年 平野 春夫  
昭和54年 齋藤 頼太郎  
昭和55年 柴田 康弘  
昭和55年 関 美貴子  
昭和58年 石井 浩郎  
昭和60年 富樫 真  
昭和60年 西尾 薫  
平成10年 三浦 茂樹

ご協力に感謝いたします

### 会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596  
「秋田高校東京同窓会」